



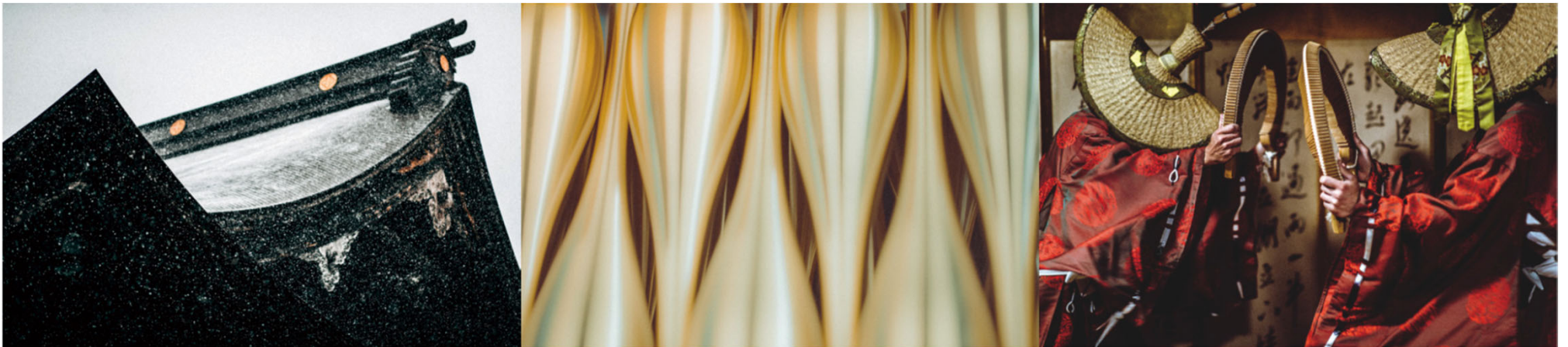
リジェネラティブ・ツーリズム
～地域資源継承につながる高付加価値ツーリズムのための
制度設計の必要性





2019年5月設立。DMO&DMC

一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠は、
観光を通じて地域振興を推進する組織です。



観光は「手段」であって、「目的」は地域づくり・活性化



高低差4,000mのダイナミックな自然
厳しさと恵み

富山の厳しくも豊かな自然と人々が共に作り上げる「品格」



ミッション：富山の「土徳」を伝えること



棟方志功（1903年～1975年）

疎開をきっかけに富山に6年8ヶ月暮らした。

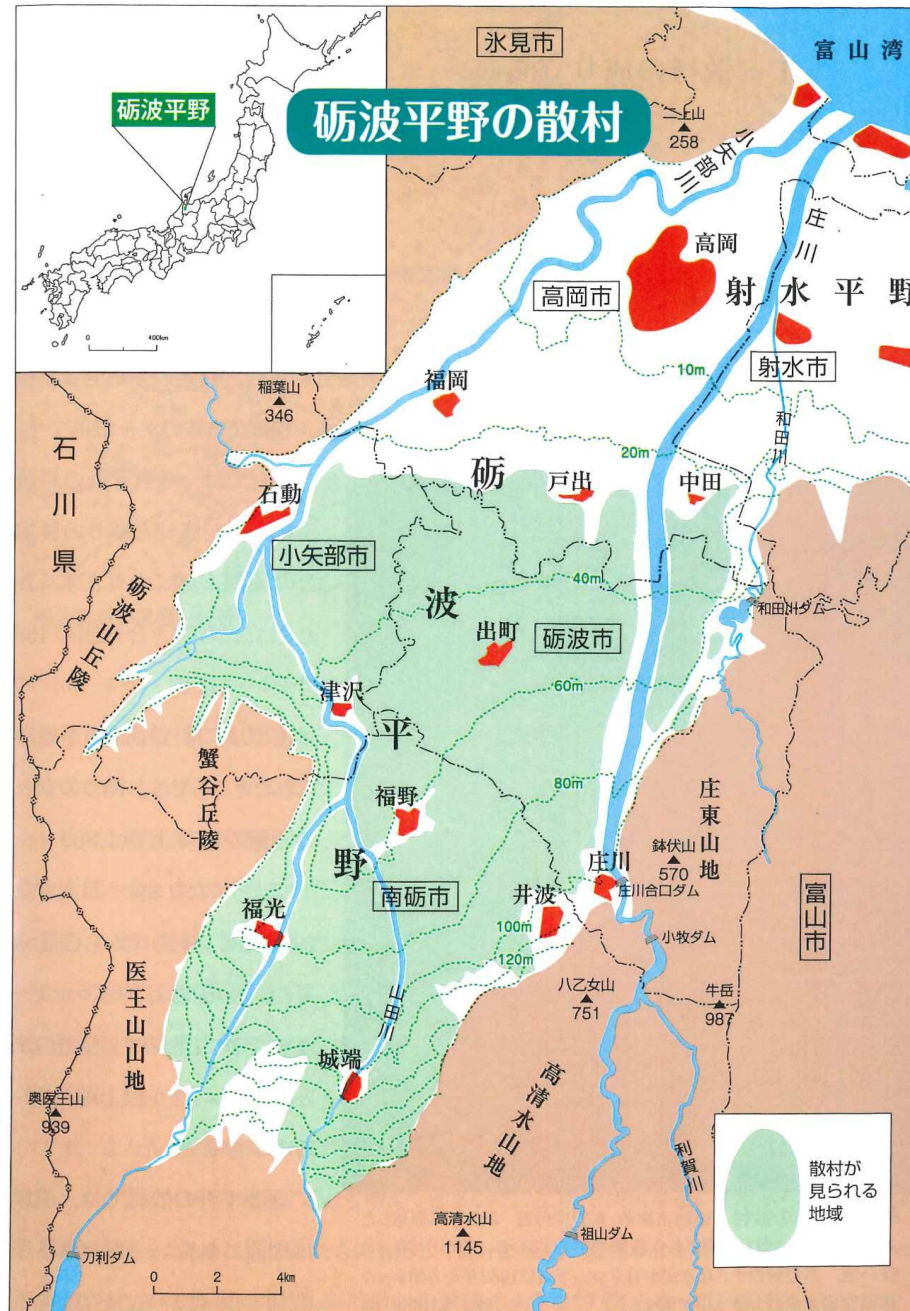
「他力の国・富山」に留学した棟方志功



柳宗悦（1889年～1961年）

宗教学者、民藝運動の創始者
1945年以降、頻繁に富山を訪れる。

「この土地には土徳がある」



庄川と小矢部川によって形成された扇状地。
220Km²に及ぶ日本最大の散居村

礫層にも関わらず稲作が可能なのは、高い山からの豊富な雪解け水のおかげ。

国の「生物多様性保全上重要な里地里山」に認定されている。





礫層の水田を管理するために
水田の中に建てられた伝統家
屋「アズマダチ」と孤立した
家を風雪から守る屋敷林（カ
イニヨ）。

水の恵みに感謝する精神風土が培
われた。
5,000体以上と言われる散居村の石
仏。水信仰と関わりに深い、不動
明王、弁財天などが湧水や井戸の
そばに建立されている。



もっと知りたい カイニョのこと!!

カイニョサイエンス

～カイニョの広がる砺波平野を科学する～

右の図は平成13年8月に、砺波平野の地表面の温度（建物や、水田・道路などの表面温度）を空からセンサーを用いて測定したものです。色が暗いほど地表面の温度は低く、明るいほど高いことをあらわしています。



建物の多く集まる市街地より水田の広がる散村の方が約13℃も地表面の温度が低いことがわかります。

地表面の温度が低いと、空気（気温）も低いことがわかりました。

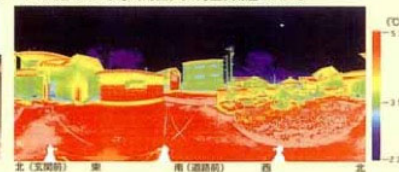


次にカイニョに囲まれた家とカイニョのない家で真夏の日の温度を比べてみました。下の図は熱画像と言って、まわりの木や建物、地面などの温度を色別にあらわしたものです。

●カイニョに囲まれたアズマダチの家（南面）（8月）気温32.7℃



●カイニョのないコンクリートの庭のある家（南面）（8月）気温37.2℃



みなさん、カイニョがある散村のほうが市街地より夏は気温が低く、快適に暮らせることがわかったかな。



この熱画像の図からどんなことがわかりますか、考えてみましょう。

- ・ 国の「生物多様性保全上重要な里地里山」
- ・ ヒートアイランド化を防ぐ
- ・ エリア全体の風を弱める
- ・ 水田による水の吸収
- ・ Co2の吸収

気候変動にも対応しうる、優れたエコシステムでもある。

アズマダチ古民家再生「楽土庵」

砺波平野・散居村の象徴であるアズマダチの空き家を再生し、宿泊＋レストランとして活用。2022年10月5日開業。

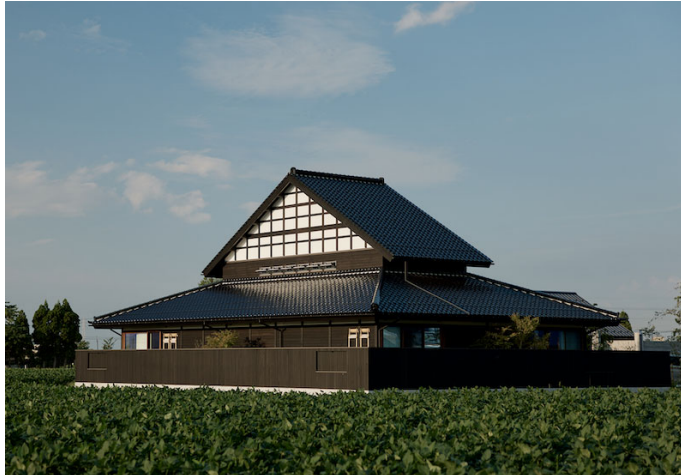


城端別院 善徳寺「杜人舎」

550年の歴史ある善徳寺内の建物を改修した宿泊・カフェ・ショップ・テレワークスペースの多機能を持つ施設。2024年3月開業。



事業紹介 : 物件開発（楽土庵）



◎宿泊費の2%を散居村保全活動へ寄付

◎地元の伝統産業や工芸作家の作品や器を宿やレストランで使用&ブティックで販売

◎地域の資源を使った商品開発



観光で得た収益を地域づくりや環境保全に還元
旅行者・地域双方の再生へ（リジェネラティブ・ツーリズム）

◎2025年手配数：230組（対前年比約300%）

◎国籍ランキング

アメリカ：約60%、フランス、イギリス、ドイツ、スイス、オーストラリア、シンガポール、上海、インド

◎職業ランキング

- 1位：医者
- 2位：投資家
- 3位：リタイアされた方
- 4位：建築・デザイン関係
- 5位：マーケティング、IT関連

ギャラリスト、映画・音楽関係等クリエイティブな業界の方も多い。
貴族院議員、弁護士などもおられる。

◎年齢、構成：40代～70代、20代の新婚カップル（ハネムーン）。カップルが1番多い。

親子家族2組、お一人旅も。

◎一組当たり消費額／日：約30万円（ホテル・食事・体験・通訳ガイド・貸切車両）



来訪者が魅力に感じるポイント：

「富山の自然（水）と人々との共生」を土台とした、伝統産業・農業・漁業・お酒造り・信仰などの物語



地域資源保全に寄与したい。空き家購入や投資の申し入れ多数。
地域内外の方たちと共に取り組む「トラスト運動」への展開可能性



◎楽土庵宿泊費を保全活動へ寄付
宿泊費の2%を「カイニヨお手入れ支援隊」等の団体へ寄付

◎保全活動に参加するツアーの実施
「屋敷林のお手入れツアー」で観光庁「サステナブルな旅アワード」2025大賞受賞



◎未利用資源の活用
屋敷林の剪定枝から採った精油でアロマスプレーを製造・販売

廃棄される籾殻を使った炊飯器「ねかべっつい」の開発。

屋敷林の剪定枝から作った薪で料理（楽土庵レストランで提供）



散居村保全の取り組み：R8年度良好な環境を活用した観光モデル事業 「観光を通じた砺波平野・散居村エコシステムの再生と気候変動適応を推進する新たな観光地域づくり事業」



水系調査、湧水・清水調査、水辺の生き物調査、地元住民との会合・説明会等の実施。
環境省「自然共生サイト」の申請、水を巡るツアー造成を目指している。

◎地域住民の価値認識不足

あたり前の暮らしとして価値認識されておらず、少子高齢化に伴い、資源喪失が加速している。



客観的な価値付が急務。

「文化的景観」や「自然共生サイト」、など認定制度の活用。やがて散居村全体（面）での取り組みへの展開を目指す。

◎汚染対策からネイチャーポジティブへ

地域で水環境を保全している住民たちの取り組みは、「マイナス→0」ではなく、「0→プラス」に変えているが、評価されていない。



インバウンド観光客にとってもアピールできるポイント。その発信や推進を促す施策があれば。

◎行政の巻き込み不足

民間の動きと行政の施策があまり連動していない。



環境省が取り組む事で多くの自治体・企業が動くようなムーブメントを起こす制度を検討してほしい。